

「日本語が身につく前の、少年時代の台湾で覚えた北京語の断片的な記憶だけをたよりに、ぼくは中国大陆の中で動いた。(……)何度も迷子になりながら、一人で歩きつづけた」 **リービ英雄**

「過去二十年ほどのリービさんは中国大陆への旅をくりかえし、アメリカの白人が中国辺境への旅を日本語で小説に書くという、前人未達の作業にとりくんでいる。文学と旅、移住、異邦、言語の衝突といった 主題が点滅をつづける」 **管啓次郎**

「リービ英雄の『天安門』には、〈アメリカ人〉を意味する〈美国人〉という漢字に、二種類のルビが振られている。作者はそれを、文脈によって〈メイグォレン〉とも〈ビーゴーラン〉とも読ませる。前者は北京語、後者は台湾(閩南)語の〈音〉を示す。漢字仮名混じり文という日本語の特性を生かし、特に片仮名を駆使して、複数の言語を音から音へと軽やかに越境する〈リービ英雄文学〉に初めて触れたとき、私は、日本語を読み、書くことの醍醐味を一から教わり直す心地だった」 **温又柔**



#### 主演者プロフィール

##### ◆リービ英雄 (リービ ひでお)

1950年アメリカ生まれ。少年時代を台湾、香港で過ごし、67年に日本に初めて住む。その後、日米往還を繰り返し、プリンストン大学大学院博士課程修了、プリンストン大学、スタンフォード大学で日本文学の教授を務める。87年、「群像」に小説「星条旗の間こえない部屋」を発表。日本語を母語としない西洋出身者による初めての日本文学として話題を呼ぶ。以降『天安門』『千々にくだけで』『大佛次郎賞』『仮の水』『伊藤整文学賞』等を刊行。現在も日本文学の最前線をひた走り続ける。

##### ◆温又柔 (おん ゆうじゅう)

小説家。1980年台湾生まれ。3歳から東京在住。1999年、国際文化学部の1期生として法政大学に入学。在学中は、リービ英雄、川村湊、司修(2006退官)らから文学を教わり、習作を重ねる。2006年法政大学大学院・国際文化専攻修士課程修了。修士論文は「日本人として生まれなかった日本語作家・李良枝の主題と作品」。2009年「好去好来歌」で第33回すばる文学賞佳作受賞。著書に『来福の家』(集英社)。

##### ◆大川景子 (おおかわ けいこ)

映像作家。1978年生まれ。東京芸術大学大学院映像研究科卒業。諏訪敦彦監督編『黒髪』、筒井武文監督『バツハの肖像』編集、杉田協士監督『ひとつの歌』助監督・編集。自身の作品としては、ドキュメンタリー『高浪アパート』(2006)がある。『ろうそくの炎がささやく言葉』(勁草書房)や『春の先の春へ 震災への鎮魂歌 古川日出男 宮澤賢治「春と修羅」をよむ』(左右社)プロモーションビデオを担当。

## 法政大学 市ヶ谷キャンパス

東京都千代田区富士見2-17-1

JR線・地下鉄 市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

※ご不明な点がございましたら 法政大学 国際文化学部  
jkokusai@hosei.ac.jp までお問い合わせください

